

今の時代の性教育について考えさせられました…

インタビューや講演など、様々な立場の方からの知識、情報、アドバイスがあり、有意義な連載をお届けできたと思います。共通しているのは、それぞれの家庭で、子供の言動に合わせ、タイミングをとらえて教えることの大切さだと感じました。

60代の男性としては、我々世代までの「男らしさ」の負の面（男権意識、性的にも優位に立ちたい傾向など）の解消努力が必要だと身にしみました。

以前とは比べものにならない性情報の入手のしやすさ、デートDVの問題など、新たな課題も出ています。家庭での性教育の助けになるためにも、学校・教師、行政、周囲の大人による状況に沿った知恵やアドバイスは不断になければなりませんね。

「はばたき21通信 No.35、37、39、41」

○男女平等推進プラザ(生涯学習センター4階)にて配布しています。
○区のホームページにも掲載しています。



様々な学びの中で、これからの生活でも大切にしていきたいと思っただけで、櫻井裕子さんのお話で知った「同意」(体の自己決定すること)とい言葉です。
自分自身の考えや気持ち。嫌なこととは嫌と言っていること。自分自身を大事にする。体の自己決定をするとき以外にも、自分と相手とは異なる考えを持っていることを念頭に置き、まずは聞いてみる。はつきりイエス、ノーが聞けたらいいのですが、本当の同意が聞けないときは、相手はノーなのだということを知っておくことがとても大切であると気付かされました。

連載を通じて、性教育は人権教育であると学びました。「性教育」のフレーズだけで構えてしまうことなく、タブー視されていたことがオープンに、また正しい知識を学べる機会を社会全体で作れたらと思います。まずは、家庭からできることはたくさんあると思うので、祖父母、親世代が知識を付けられる学びの場や機会を行政・学校・地域等と作り、子供たちに伝えられるように日々のコミュニケーションを大切にしていっていただければと思います。

連載を終えて

「はばたき21」講座レポート



「はばたき21」では、男女平等参画社会の実現に向けた講座を実施しています。ここでは、今年度実施した2講座を紹介します。

『こんなところにジェンダーバイアス!? — 失敗から考える男らしさの呪縛』

■日時：2021年10月30日(土) 午後2時～3時30分
■講師：清田 隆之さん(恋バナ収集ユニット「桃山商事」代表)

これまで1,200人以上の悩み相談に耳を傾け、恋愛とジェンダーをテーマに発信を続ける清田さん。身近な恋バナのエピソードから、その底にある様々なジェンダーに関する問題が見えてくるということで、「男性がやらかしがちな失敗」の背景や、「話し合いができない男たち」など、男性性に関する考察をお話していただきました。

参加者との活発な質疑応答もあり、終了後には「ジェンダーという問題がいかに重要なテーマかということが伝わった」などの感想が寄せられました。

『あの! 田房永子さんに聴く キレル私への処方箋』

■日時：2021年12月4日(土) 午前10時～12時
■講師：田房 永子さん(漫画家・エッセイスト)

夫に対して理不尽にキレてしまう自身の姿や葛藤を描いた『キレル私をやめたい〜夫をグーで殴る妻をやめるまで〜』(竹書房)の著者である田房さんをお招きしてのZoomによるオンライン講座は、田房さんと参加者が協働でつくるお話会という形ですすめられました。

「怒っている自分の事情を自分にきいてみることで、パニックにならずにすむようになった」など、参加者とのやりとりを通して語られる様々なお話は、とても心に響くものでした。



Q どうする? 家庭での性教育

「子供と一緒に学び、きちんと向き合うことの大切さ」

これまで、4回にわたりお届けしてきた「どうする?家庭での性教育」。毎回、編集委員が「多くの方に届いたら…」という願いを込めて臨んだ連載も、今回が最終回となります。そこで、編集委員がこれまでを振り返り、この企画を始めたきっかけや連載を通じて学んだこと、気付いたこと、これからの性教育に望むことなど、様々な想いを綴りました。



これまでの『どうする?家庭での性教育』

1. 『はばたき21通信 No.35』(2018年3月)

助産師 嶋村克子さんインタビュー

「性教育をしなきゃ」と身構えず、子供のなぜに向き合う。わかりやすい言葉を見つけ、オリジナルのストーリーで伝えると、理解が深まる。

2. 『はばたき21通信 No.37』(2019年3月)

大正小学校 家庭教育学級取材レポート

講師: のじまなみさん(「パンツの教室協会」代表) 性について、日頃から子供が話しやすい環境を作っていく。子供の質問に対して、怒らない・ごまかさず・逃げ出さない。

3. 『はばたき21通信 No.39』(2020年3月)

「デートDV/対等な関係」人権尊重教育研修会レポート

講師: 櫻井裕子さん(助産師・思春期保健相談士) 「いやいやよはマゾで嫌」が言えるようになることが大切。すぐにYESと言わないとき、相手は同意していないことを知っておく必要がある。

4. 『はばたき21通信 No.41』(2021年3月)

「本を通して考える、男の子と性の問題」

『これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるためのレッスン』(太田啓子著/大月書店)での「有害な男らしさ」と性暴力に関する記述から、男の子の育て方について考える。

以前から、「性教育」というと生殖ばかりが取り上げられ、卑猥な見方やタブー視されていることにずっと違和感を覚えていました。そうした中で、子供たちはなかなか生きた情報を得る機会が少なく、親世代はうまく子供たちに伝えられない状況にあるのではないかと感じていました。子供には、自分の体を守るために、そして、間違った知識で相手を傷つけてしまったり、犯罪に巻き込まれない、巻き込まないためにも、性に関する正しい知識を知ってほしいという願いから、家庭での性教育というテーマを情報誌で取り上げたいと思いました。

性に関する正しい知識を

学びを实践

ママ友から、「兄妹で入浴中、兄が妹の下半身をのぞき込んでいることにびっくりし、『じろじろ見ない』としか言えなかった。男女の体のつくりの違いに気付いたけれど、どうしていいのかわからない」という相談を受けたことがあります。こうした悩みは、周囲でもいろいろ聞かれます。私自身、子供に性に関する話を聞かれた際に構えてしまい、うまく伝えられないのではないかと不安があります。実際、我が家でもラブシーンを見た子供に、「何やってるの?」と聞かれたことがあり、夫はいつかわかるという言葉が濁っていました。

私も以前は余計なこととは言わず、時を待っていました。が、のじまなみさんの講演を聞き、今では、「愛し合っているんだよ」と答えています。その後がまだ膨らまないで、いつ質問されても答えられるようにしたいです。どこまで踏み込んでわかる言葉で伝えられるかが課題です。

様々な学びから感じたこと

どの回にもそれぞれに学びがありました。共通することは、学び合いと「コミュニケーションの大切さ」だと思います。

今、時代の流れはさらに早く、インターネット等での性被害や事件があると絶たない状況になっています。親として、大人として、子供たちを守っていくためにアンテナを立て、学ぶことがかなり必要ではないかと感じました。また、低年齢の頃から子供のなぜに寄り添い、語り合うことで親子の信頼関係を構築し、話せる環境を作ること、性被害を防げたり、発見できるのではないかと思います。家族間のコミュニケーションから相手への「コミュニケーション」を広げることが、対等な関係や思いやりのある行動ができるようになるのではないのでしょうか。